様　式　C－19、F－19、Z－19　(共通)

科研費 KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 27 年　 6 月 23 日現在

機関番号：32632
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2014
課題番号：23530664

研究課題名（和文）看護・介護分野における外国人労働者受け入れの政策比較研究

研究課題名（英文）Comparative Studies on Acceptance of Foreign Workers in the Fields of Nursing and Caregiving

研究代表者
大野　俊（Ohno, Shun）

清泉女子大学・文学部・教授

研究者番号：10448409

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,900,000円

研究成果の概要（和文）：看護・介護分野における外国人労働者の受入先進国・地域であるシンガポール、台湾、オーストラリア、英国、ドイツ、ノルウェー、カナダで現地調査を実施した。これらの国や地域では中央政府、地方政府、看護師組合、フィリピンの現地大使館・海外労働事務所、NGOなどを訪問し、関係者からの聴き取り、「ケア移民」を対象とする配布票調査などを実施した。
　その結果、応募者のスクリーン段階における言語能力基準の確立、受入れ後の適応プログラムや訓練コースの整備、看護師組合、NGOなどによる民間支援など、東南アジア諸国との経済連携協定（EPA）に基づく日本のケア移民受入れの参考にもなる、官民の様々な取り組みが確認された。

研究成果の概要（英文）：The reseacher has conducted field surveys related to migrant nurses and careworkers in Singapore, Taiwan, Australia, U.K., Germany, Norway and Canada, which have rich experiences to receive a number of "care migrants" for a long time. In those countries and area, he visited varios offices of central governments,local governments, Philippine emabassies, nurse unions, NGOs and others in order to interview many informants and conduct questionnare surveys.
As a result, he found established policies and programs in the stage of screening of foreign applicants by language ability and adaptation in receiving countries and some provinces, and so forth. He also observed various assistant programs administered by nurse unions, NGOs and other private sectors.
Those policies and programs are quite relavent to Japan's programs to receive migrant nuses and careworkers from Southeast Asian countries under the Economic Partnership Agreements(EPAs).

研究分野：国際社会学

キーワード：介護　看護　外国人労働者　移民　政策比較　migrant nurse　migrant careworker　policy comparison

１．研究開始当初の背景

(1) 本研究に関わるケアのグローバル化やケア労働者の国際移動について、研究の蓄積は限定的であった。グローバルなケアの連鎖を看護にも広げて論じたものでは、Nicola Yeates,2009, ***Globalizing Care Economies and Migrant Workers*** (2009), John Connell, ***Migration and the Globalization of Health Care***(2010)などが英語圏で刊行されていた。日本国内の研究は、介護労働との境界があいまいな家事労働者や、在日外国人高齢者ケアを研究対象とする社会学的アプローチの論文が目立ち、ジェンダー研究の観点から、ケア労働者の国際移動現象を途上国の女性に犠牲を強いる「国際的な不平等レジーム」「再生産労働の国際商品化」などと、批判的に論じたものも多い。

(2) 一方、経済連携協定（EPA）の取り決めに従って来日のインドネシア人とフィリピン人介護・看護労働者や、受け入れの病院・介護施設に関する包括的研究は、本研究応募者が代表を務めた九州大学の学際共同研究チームが 2008 年度以降、送出国や日本全国で実施し、その成果を発表している。そこでは、インドネシア人・フィリピン人候補者の属性、日本就労の動機などの相違や、受入病院と介護施設間の日本語学習や国家試験対策の取り組み、候補者に対する評価の相違点などを明らかにした。さらに、外国人労働者、受入病院・施設とも、EPA 制度の不備を感じとり、国家試験対策などにおける政府の役割、日本や送出国での研修のあり方など、制度やその運用に様々な改善の余地があることも明らかにした。

(3) 本研究応募者は、EPA 制度の問題点の解明調査を経て、国際的視野から日本の外国人看護・介護労働者の受け入れ制度を再構築する必要性を痛感した。そのためには、これまで多数の外国人看護・介護労働者受け入れの歴史を持つ先進諸国における政策や実態の最新の動向を究明しようと考えた。

２．研究の目的

(1) 日本と東南アジア諸国間の EPA での取り決めに従ってインドネシアとフィリピンから看護・介護労働者の日本受け入れが 2008 年度より始まった。しかし、雇用した病院や介護施設は、職場における国家資格試験の対策、日本語教育などが大きな負担となっており、2010 年度には受入希望の病院や介護施設が激減した。

(2)本研究は、高齢化と人口減少が進む日本で介護・看護分野における外国人受け入れ問題は今後さらに大きな課題になるとの予測から、欧米、アジアなど海外の外国人ケア労働者受入先駆諸国の政策の比較研究を進め、各国の対応を明らかにする。それとともに、グローバルな視野から日本型の受け入れモデルを模索した。

３．研究の方法

(1)2011 年度から 2014 年度にかけて、看護・介護分野における外国人労働者（移民）の受入先進国・地域であるシンガポール、オーストラリア、英国、ドイツ、ノルウェー、台湾、カナダで順次、現地調査を実施した。これらの国々では中央政府、地方政府、看護師組合、介護士の扶助団体、主要送出国フィリピンの現地大使館・海外労働事務所、NGO などを訪問し、キーインフォーマントからの聴き取り調査を実施した。

(2)カナダでの調査では、バンクーバー、トロント、ウィニペグの各都市において「ケア移民」を対象とする配布票調査も実施した。

４．研究成果

各国・地域での調査で、移民看護師・介護士の受入れ先進国・地域において以下のよう

な傾向が確認された。
(1)高齢化が進む欧米・アジア太平洋の先進国では、看護・介護職の不足が深刻化し、ある一定割合は外国人労働力に依存している。
(2)看護師は、各国で「skilled worker」と位置づけられ、受入国の国家資格の取得が求められている。また、職務上の必然性から、受入国の高度な言語能力が必要とされている。英国、豪州、カナダでは、英語試験の IELTS で 7.0 を上回る条件が課されている。ドイツでは、ドイツ語試験の「B１レベル」以上の合格が求められるが、１レベル下の「B2 レベル」以上にしている州もある。

ノルウェーでは、移民技能労働者は就業の際、民間試験の「ベルゲン・テスト」の受験が求められるが、雇用主がそのスコアで雇用か否かの判断をしている。

カナダでは、人手不足が深刻な内陸のマニトバ州などが「provincial nominee program」を導入し、看護師はじめ州が定める特定職種について独自の移民受入れ推進策を実施している。オーストラリアのパースなどでは、移民看護師に対して追加教育をする「bridging program」が実施されている。その内容は、大学・専門学校・病院など実施主体によって異なっている。
(3)「准看護師」は、移民が比較的早期に得やすい職業資格として、シンガポール、オーストラリアなどで活用されている。
(4)介護職は「semi-skilled」、あるいは「low-skilled」と位置づけられ、看護師ほど高い言語能力や専門性は要求されていない。高齢者介護の外国人労働者を近隣諸国から多数受け入れているシンガポールや台湾では、自国民の労働者とは賃金など労働条件が相当に異なる「二重基準」の労働市場が形成されている。

カナダでは、介護・家事労働者の不足を補うため、連邦政府のプログラム「Live-in Care Program(LCP)」のもと、フィリピン人を中心に多数の移民労働者を受け入れてきた。受け入れ家庭内での人権問題の多発を受けて「住み込み」義務は 2014 年に廃止されたが、このプログラムでの入国移民に対する永住権付与枠の設定が、フィリピン人労働者らの反発を招いている。
(5)ニューカマーは、受入国での社会的上昇を目指し、介護職を「エントリー・ポイント」として活用する傾向がある。このため、欧米・オーストラリアなどでは介護労働現場の「有色人種化」が顕著になっている。
(6)受入国の言語の能力は通常、受入れ審査段階でスクリーンされる。 東欧諸国やフィリピンから看護師候補者を試行的に受け入れる「トリプル・ウィン・プログラム (Triple Win Program) 」を始めたドイツと、EPA の枠内で受入れを進める日本は、受入国の当局が送出国で自国の言語能力向上に予算を費やす、例外的な国である。
(7)海外から看護師受け入れの長い歴史がある英国、カナダなどでは、看護師の組合が移民看護師向けの相談員を置いたり、適応プログラムなどを準備し、支援態勢を整えている。

住み込みの外国人介護・家事労働者の人権問題が深刻化した台湾では、地方自治体による多言語対応の相談窓口の設置、NGO による法案整備運動など、外国人労働者に対する権利擁護活動が活発化している。

上記のような民間や地方自治体の取り組みは、今後さらに多くの外国人看護師・介護士を受け入れる日本にとっても参考になる、

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）

①Ohno, Shun, “ Southeast Asian Nurses and Caregiving Workers Transcending the National Boundaries: An Overview of

Indonesian and Filipino Workers in Japan and Abroad", ***Southeast Asian Studies***(東南アジア研究),査読有,Vol.49, No.4, 2012, pp.541-569.

②Hirano, Yuko O., Shun Ohno ***et al.***, "A Comparative Study of Filipino and Indonesian Candidates for Registered Nurse and Certified Care Worker Coming to Japan under Economic Partnership Agreements: An Analysis of the Results of Questionnaire Surveys on the Socio-economic Attribution of the Respondents and Their Motivation to Work in Japan", ***Southeast Asian Studies***, 査読有,Vol.49, No.4, 2012, pp.594-610.

③ Setyowati, Shun Ohno ***et al.***, "Indonesian Nurses Challenging for Passing the National Board Examination for Registered Nurse in Japanese: Suggestions for Solution to Their Problems", ***Southeast Asian Studies***, 査読有, Vol. 49, No.4, 2012, pp.629-642.

④ Kawaguchi, Yoshichika, Shun Ohno ***et al.*** "Exploring Learning Problems of Filipino Nurse Candidates Working in Japan: The Results of A Study through Giving a Practice National Board Examination of Japan in English", ***Southeast Asian Studies***, 査読有,Vol.49, No.4, 2012, pp.643-651.

⑤ Ohno, Shun, "Transcending National Boundaries: Indonesian and Filipino Nurses and Caregiving Workers in Japan", ***Quilted Sightings***, Vol.2, No.1 (published by the Miriam College Women and Gender Institute), 2012, pp.41-78.

⑥ Ohno, Shun, "Explorations of Challenging Issues for Japan's Acceptance of Indonesian and Filipino Nurses & Care Workers: Outcome of Quantity and Quantity Surveys in Japan and the Sending Countries", ***JADe*** (***Journal of Ageing and Development***), 査読有, Vol.1,No.1 (published by Center for Ageing Studies, University of Indonesia), 2013, pp.1-26.

⑦Tsubota, Kunio, Shun Ohno ***et al.***, "A Study on the Cost and Willingness to Recruit EPA Foreign Nurses and Care Workers in Japan: From the Angle of Hospitals and Care Facilities", ***Health Science Research***, 査読有,Vol.27, 2014, pp.45-53.

⑧Ohno, Shun, "International Migration of Filipino Nurses under the Japan-Philippines Economic Partnership Agreement: Problems and Challenges", ***Asian Studies***(special edition), 査読有,2015(予定).

〔学会発表〕(計14件=いずれも単独)

① 「日本の外国人看護師・介護士受入施策とその課題—諸外国と比較しつつ」(2011年10月1日、東京都内で開催の第18回多文化間精神医学会学術総会で).

② "The Age of Transnational Care in Ageing Societies: Extensive Explorations of Problems of Japan's Acceptance of Indonesian and Filipino Nurses and Care Workers"(2011年10月13日、インドネシア・デンパサール市内で開催の International Workshop on Designing Age Friendly Communities to Aging in Place).

③ "Border-Crossing Indonesian and Filipino Healthcare Workers Caught in Dilemma: Evaluation of Japan's Human Mobility Project under the Economic Partnership Agreements(EPAs)"(2012

年 1 月 27 日、マニラでのアテネオ・デ・マニラ大学主催の International Conference on Japanese Studies で).

④ 「看護・介護分野における諸外国の移民受入制度・政策から学ぶもの－＜日本型受入れモデルの構築に向けて＞」(2012 年 3 月 5 日、東京都内で長崎大学主催の国際保健医療福祉セミナー).

⑤ 「ケアは国境を越えられるのか？－日本と世界における「介護・看護移民」受入れの現状と市民の役割」(2012 年 5 月 10 日、清泉女子大学で開催の地球市民学専攻・公開合同セミナー）.

⑥ 「看護分野における諸外国の移民受入れ制度と課題」(2012 年 6 月 24 日、福岡市の九州大学医学部百年講堂で開催の第 19 回多文化精神医学会学術総会）.

⑦ “Acceptance of Overseas Nurses and Care Workers in Multicultural Societies: Implications for Establishment of Japan's Model”(2012 年 11 月 11 日、北九州国際会議でのアジア太平洋アクティブエイジング 北九州会議).

⑧ “Progress of Filipino Nurse Migration under the JPEPA: Challenges and Problems”(2013 年 1 月 24 日、長崎大学とフィリピン大学がフィリピン大学アジアセンターで開催の国際シンポジウム“Migration of Filipino Nurses under the Japan-Philippines Economic Partnership Agreement (JPEPA): Trends and Challenges”).

⑨ “Evaluation of Migration Policies of Japan for Filipino and the Other Southeast Asian Nurses and Care Workers”(2014 年 3 月 1 日、京都大学東南アジア研究所での Philippine Studies Conference in Japan).

⑩ 「看護・介護分野における先進諸国の移民受入れの実態と政策」(2014 年 5 月 18 日、東北大学医学部保健学科での第 40 回保健医療社会学会）.

⑪ “Searching for the Global Standard Recruitment and Employment of Border-Crossing Nurses and Careworkers: Findings and Recommendations Based on Fieldwork in the Asia-Pacific Europe”(2014 年 7 月 15 日、横浜市内で開催の XVIII ISA World Congress of Sociology).

⑫ “Searching for the Model Recruitment and Employment of Border-Crossing Nurses and Care Workers: Findings Based on Fieldwork in the Asia-Pacific Europe”(2014 年 12 月 26 日、台北・国立台湾大学で同大学、九州大学など主催の国際ワークショップ“Gender, Care and State in East Asia”).

⑬ “Eyes to the East: The Challenges to the Integration of E.U. and non-E.U. Nursing Workforces”（研究協力者のマリオ・ロペス准教授が 2014 年 3 月 1 日、京都大学東南アジア研究所での Philippine Studies Conference in Japan で発表）.

⑭「これからのケア確保の安全保障-ドイツとフィリピンの協力関係の事例から学ぶ」(研究協力者のマリオ・ロペス准教授が2014年9月6日、京都府木津川市の国際高等研究所での同研究所第5回研究会で発表）.

〔図書（報告書)〕(計 4 件)

① 『公開講座「アジアの看護を理解しよう－2 国間協定に基づき来日中のインドネシア人・フィリピン人看護師を受け入れて」報告書』(平野裕子らとの共編、長崎大学刊行)、2012、97 ページ.

② 『外国人「看護師」候補者受入れアンケ

ート結果（全体集計）』（坪田邦夫らとの共著、8 ページの印刷物）、2012.

③ 『外国人「介護福祉士」候補者受入れアンケート結果（全体集計）』（坪田邦夫らとの共著、8 ページの印刷物）、2012.

④ 「JPEPA に基づくフィリピン人看護師の移動の進展：挑戦と課題」、平野裕子ら編、『長崎大学・フィリピン大学共催国際シンポジウム「日比経済連携協定に基づくフィリピン人看護師の国際移動」報告書』（長崎大学発行）、2014、pp.15-28.

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

６．研究組織

(1)研究代表者

大野　俊(Shun Ohno)

清泉女子大学・文学部地球市民学科・教授

研究者番号：10448409

(2)研究協力者

マリオ・イヴァン・ロペス（Mario Ivan Lopez）

京都大学東南アジア研究所准教授.

研究者番号：70527639